

Title	心身の病とたましいのケア：大切だけど忘れがちなこと（総合研究所 News：2014年度聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター主催 スピリチュアルケア研究講演会）
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.24No.3, 2015.3 :68-71
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=5283
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

2014年度 聖学院大学総合研究所
カウンセリング研究センター主催
スピリチュアルケア研究講演会
心身の病とたましいのケア
～大切だけど忘れがちなこと～

日本は少子化と高齢化時代を迎えています。若い人にも、高齢者にも優しい社会が望まれます。

しかし、残念ながら、現実には自死者が絶えません。不登校児も増えています。働き盛りの人の精神的病も大きな社会問題です。

今回は、精神保健福祉士・社会福祉士として長い経験をもつ田村綾子助教授からお話をお聞きしたいと企画しました。心身とたましいへのケアを中心にして、人生を健康に輝いて生きる方法を考えてみたいと願っています。

日時：2015年1月16日（金）

14：00～16：30（開場13：30）

場所：聖学院大学ヴェリタス館教授会室

【プログラム】

開会挨拶

阿久戸 光晴（聖学院大学理事長・院長）

講演「心身の病とたましいのケア～大切だけど忘れがちなこと～」

田村 綾子（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科准教授）

質疑応答

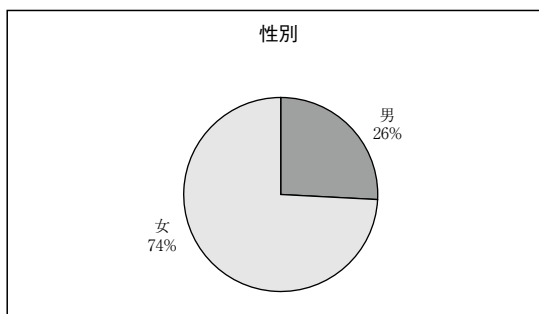
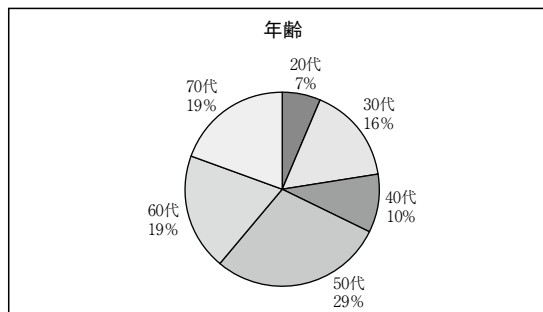
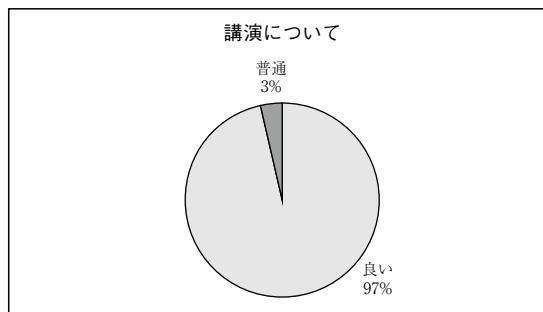
司会

窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授・聖学院大学人間福祉学部子ども心理学科長）

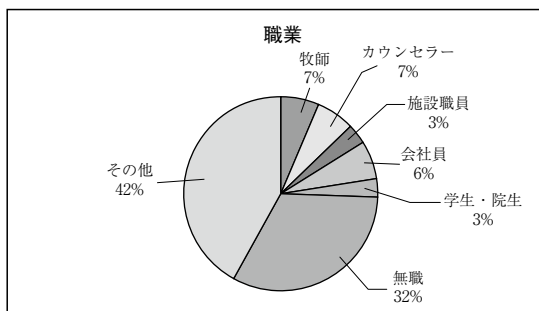
閉会

【結果の概要】

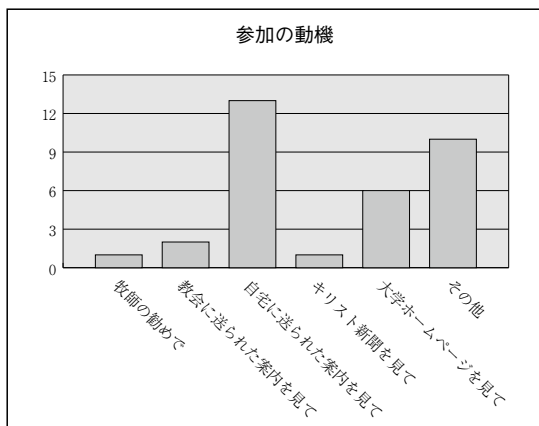
- ・参加者は51名。内、アンケート回答者は32名。
- ・講演について、「良い」という意見が97%と高い評価を得た。
- ・自由意見は、「すばらしい講演だった」「今回のお話を参考にしていきたい」「具体例も多く大変参考になった」「またあれば参加したい」など。



*回答者のプロフィールとして、年齢は「50代」が最も多く29%、次に「60代」「70代」共に19%。性別は「女性」74%、「男性」26%となった。



*職業別では「無職」が32%、次に「牧師」「カウンセラー」が共に7%となった。「その他」として、「看護師」「団体職員」「主婦」など。



*参加の動機として、「自宅に送られた案内を見て」が最も多く、次に「大学ホームページを見て」となった。「その他」の内容は、「友人の勧めで」「職場に送られた案内を見て」など。

4. 今後、聞いてみたい講演会やご希望

- ・ピアサポートについて
- ・田村先生の講演は大変良く、拝聴させて頂きました。人は生まれてから死へ向かう生き物です。その中で、不安、恐怖のやわらげ方を探して生きてゆくものだと思います。今後ますます高齢化が進みますので、「心のケア」の問題について考えていける講演は大変参考になるような気がしますね。
- ・スピリチュアルと精神ケアは結びついていると思うのですが、実際の現場でどの様に应用されているのか、また実践されているのかなどの講演会を希望します。
- ・スピリチュアルケアの看護の役割について学びたいです。
- ・駒込えぜる診療所の芳賀真理子先生（精神保健指定医）のお話。
- ・不満や愚痴を常に言いがちな人（自分を含めて）、無気力な人々が変わるきっかけになるような講演をしてもらいたい。
- ・子どもの精神障害について。
- ・「臨床宗教師」という存在があるのをNHKの番組で知りました。この活動をされている方の講演を聞いてみたい。

5. 自由意見

- ・具体的実体験に富んだお話で大変考えさせられ、種々のヒント、気づきを与えていただきました。改めて「ひとりよがり」が「傲慢さ」につながることを痛感し、意識しなければならないと思いました。
- ・現場での体験をふまえてお話いただいたので非常にわかりやすく時間があっという間に過ぎた感覚がありました。看護師として死にゆく人への支援やたましいのケアというのは避けては通れないものなので、今回のお話を参考に患者さまひとりひとりに向き合っていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・福祉の分野で実践を積まれた体験をも紹介して頂きながら一人の人間としてその死にゆく状態が迫っている方々にたましいのケアの大切さを

語ってくださいましたことに感銘を受けました。人との関わりに於いても多くの面を気づかされたことに感謝しています。

- ・阿久戸先生の話は大変参考になりました。現在起きていること、現実は大変過酷なものが多く、生き抜くことも大変ですが、今回の講演に参加させて頂けたことにもご縁でもあると思います。田村先生の体験談からくるお話、大変意義深いものでした。メンタルヘルスで大切なものは、体験した人それぞれにあったものでなければならない。そうでなければ支援は不可能に近いものだと思います。
- ・「スピリチュアルケア」という言葉は初めて聞き、興味があり参加しました。身体的ニーズ、精神的ニーズ、社会的ニーズの中にスピリチュアルがあるという関係性がとてもしっくりきました。ターミナルの方への支援方法の1つだけでなく、普段の支援の中でも大切なこと、しかし忘れてしまいがちなこととして大変勉強になりました。
- ・教会に通ってる中では普通のことで、やはり現実の社会の中ではなかなか通らないことがありますが、新しいケア、サポートの形として受け入れていく世界ができれば、築かれていければと思います。
- ・心身のケアとたましいのケアというものを学ばせて頂き、今後の他者との関わりの中で大事にしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ほんとうに素晴らしい講演を心よりありがとうございます。知的で、温かくて、深くて感銘を受けました。特に「本人はがんばっている」という理解に心打たれました。また、わたしはチャプレン経験者ですが「大切なもの・者…」を書いて、一枚一枚捨てる。ということがどうしても「出来ない」と思ってきました（今もそうです）ので、田村先生も「できません」とおっしゃるのを聞きして、とてもホッとしました。心より感謝申し上げます。
- ・①レジメの最終8頁、たましいのケア、たましいのケア（～私が大切にしたいこと～）が私の心を打ちました。
②死にゆく人への支援とは（7頁）で感じたこ

とはどうしたら遠慮しないでお互いに話し合え、理解が出来るのだろうかとの課題として残りました。(キリストの言葉で言えば“自分を捨てて神と人々に仕えることだ”と思いました。)

③最後のスライドの背景が良かった。心が安らぎました。

④田村先生は経験の深いところからくる良い話でした。

- ・質問コーナーがあるので、解り易くて良い。質問など聞きたい事柄ですので、今後も質問コーナーを充実してほしい。
窪寺先生が終盤、話（質問）を持っていったさってとても机上でなく、具体的で大変よいです。
- ・今日のQ&Aの時間を聞いていて、やはりスピリチュアルケアには私たちが造られた主の介入が必要だと思いました。キリストの思いで耳をかたむけ、キリストがしたように寄り添うことが必要であると。
- ・2012年4月に精神対話士メンタルケアスペシャリスト養成講座で窪寺先生の「スピリチュアルケア」の講義をお聴きしました。それ以来、関心は持っていたのですが、なかなかスピリチュアルケアをテーマにした講演会がありませんでした。今回偶然にもHPで見つけ、参加させていただきました。リタイヤした後はぜひ活動したいと考えています。貴重なお話をありがとうございました。初心者にもわかりやすかったです。
- ・手放すこと…私は失明するかも。これを受け入れるのには手放すことでした。車の運転を手放す、本を手放す、カメラを手放す。代わりに歩く、ラジオを聴く、俳句を作るetc.→安らぎと希望⇒失明が恐くない。
- ・今日のお話は具体的な例も多く、わかりやすく話していただいたと思います。次の機会もあれば参加したいと思いました。
- ・今日は本当にお話を聞けて良かったです。病院（緩和ケア）で看護師をしています、日々難しさを感じていました。大切なことが何か再確認させていただきました。また、頭の整理につながりました。
- ・本日はお疲れさまでした。学びの総復習をする

ことができました。また、ゆだねるスピリチュアルケアの本質を考えることができました。またゆつくりと講演会に参加したいと願っています。ありがとうございました。お身体に気をつけて、またの機会を楽しみにしております。おつかれさまでした。

- ・事例を取り入れながら具体的な話を聞けて参考になりました。
- ・心身の不調の相關では、自分のことを言われているようでした。
- ・人の死についても一度考え直しました。両親が亡くなってなにも感じていなかったからです。
- ・良いお話を聞くことができ、ありがとうございました。また案内を頂けたら幸いです。
- ・具体的なお話が聞けてとても参考になりました。
- ・いろいろ難しくわかりませんでした。
- ・平日だけでなく、土曜日などにも講演会があるというなあと思います。今日は参加できてよかったです。ありがとうございました。